

平成 28 年度特別選抜（推薦入学）入学者選抜試験問題  
小論文（出題意図）  
＜医学部看護学科＞

問題 1

著者は、「知識」と「知恵」の相違について次のように述べ、「知恵」を働かせることの重要性について論じている。

知識とは、組織のタテ・ヨコから得られる情報、業界の資料などの内容を意味し、一般的、普遍的なものであり、一冊の書物として客体として存在しうるものである。一方、知恵は、情報をいかにして、あるいはどのようにして収集し、分析処理し、解釈するかといった方法を意味し、特定の具体的な状況において必要となるもので、具体的な行動に結びついているものである。また、問題解決のために、状況思考により、主体的、能動的に生み出された個人的なものであり、頭の良さを規定しているものである。

知識は、理解し、覚えるという認識のレベルに留まるものであるのに対して、知恵は、主体的に思考し、分析して、問題解決を志向する行動化に繋がる。

問 1：上記のような著者の主張についての文脈の読解能力と、それを限られた文字数で適切にまとめる文章表現能力を問う。

問 2：知恵の重要性を論じる著者の主張を、自己の身近な状況に置き換えて考えることのできる想像力と、自己の考えを具体的・論理的に記述する論理構成能力および文章表現能力を問う。

問題 2

図1は、我が国の脂肪場所別の死亡数・構成割合の年次推移を示した図で、近年病院死が増加し、1990年代以降、死亡者の8割が病院で死を迎えていることが示されている。図2は、終末期の療養場所に関する希望の調査結果を示した図で、病院死が多い現実に対して、終末期を自宅で療養したい人が増加傾向にあることが示されている。図3は、自宅で最後まで療養することが困難な理由に関する調査結果を示したもので、介護する家族の負担、病状が悪化した際の医療ケアに対する不安、経済的負担等が主な理由として示されている。

問 1：これらの数量データを読み取る読解力、および、読解した内容を限られた文字数でまとめる文章表現能力を問う。

問 2：少子高齢化、核家族化、人口の都市部への流出等による家族の介護機能の低下や、それに伴うケアの社会化等、図 1・2・3 の背景を推論する社会的関心や問題意識、および、推論を下に、終末期の人が在宅で療養するために必要な支援について論じる力、および、それを限られた文字数でまとめる文章表現能力を問う。